



浮羽中学校通信

自ら気づき、判断し、行動できる生徒の育成
【重点目標】～自信をもって何事にも取り組む生徒の育成～

うきは市立浮羽中学校
第 14 号

令和8年2月26日 発行
文責 校長 竹並俊和

最後の一人がゴールするまで ～「最強のチーム」で迎える卒業～

私立高校の入試、そして公立高校の推薦・特色化選抜を終え、すでに合格内定を掴み取った生徒の皆さん、本当におめでとう。まずは一つの大きな山を越えたことに、自信を持ってください。しかし、私たちの学校には、今この瞬間も、3月10日・11日の公立一般入試に向けて、自分を律し、一步一步努力を積み重ねている仲間がいます。その数は、学年全体の三割を切りました。3年生の皆さんは、これまで体育祭や文化祭、そして部活動や生徒会活動において、常に1・2年生の憧れの的であり、頼もしい背中を見せてくれました。皆さんが築き上げてきたのは、単なる集まりではなく、互いを高め合える「チームワーク」だったはず。勝負は、チーム全員がゴールするまで終わらない」とも言えます。合格を手にした人は、これからが正念場の仲間へ寄り添い、共に戦う姿勢を見せてください。そして、これから試験に挑む人は、仲間の応援を力に変え、最後まで一ミリも妥協せずにやり抜いてください。卒業式は3月13日です。全員が「やり抜いた」という晴れやかな顔でその日を迎えられるよう、残りわずかな時間を、人生で一番密度の濃い、最強のチームワークで過ごしましょう。先生たちは、最後まで全員を全力で応援しています。3年生の有終の美を心より期待します。

『楽学両道』のその先へ ～言葉を交わし、心を通わせた3日間～

2月10日から12日までの3日間、2年生は「大阪・京都・奈良」への修学旅行を実施しました。実行委員会を中心に掲げたスローガンは『楽学両道（らくがくりょうどう）～楽しむために～』。自分たちの課題である「メリハリ」を見つめ直し、行事を通して集団として成長することを目指して、長い時間をかけて準備を進めてきました。

今回の旅で私が最も印象に残っているのは、毎晩の夕食後に行われた会議の光景です。実行委員会から係会、全体会、そして班会まで、私もすべての場に立ち合わせてもらいました。そこで目にしたのは、リーダーだけでなく一人ひとりが、自分の感じたことや気づいたことを一生懸命に言葉にし、仲間に伝えようとする姿でした。そして、その真剣な訴えに対して、周りの仲間が深く共感し、自分事として受け止めている。その「心の交流」の中に、2年生の皆さんが持つ優しさと、集団としての確かな底力を感じ、胸が熱くなりました。残念ながら、様々な事情で今回参加できなかった仲間もいます。しかし、修学旅行という行事は、当日の3日間だけで完結するものではありません。スローガンを考え、準備を共にし、同じ目標に向かって高め合ってきた「今日までの歩み」こそが、学年の財産です。旅先で得た「気づき」や、準備の過程で育んだ「協力する心」を、次は学年全員の方へとつなげていきましょう。

USJの笑顔も、京都・奈良の歴史の重みも、そして夜の会議で交わした真剣な言葉も。そのすべてを糧にして、2年生がさらに大きく飛躍していくことを確信しています。



【博多駅 今から新幹線！】



【新幹線での様子】



【1日目 USJ】



【2日目 京都市内へ出発！】



【チェックポイント 金閣寺】



【旅館へ着きました】



【2日目夜の絵付け体験】



【旅館での夕食の様子】



【奈良公園 東大寺 大仏殿見学】



シカせんべいをシカたちに】



「言葉」に込めた思いが形に ～人権作文表彰式～

本校では、毎年夏休みの課題として全校生徒で「人権作文」に取り組んでいます。これまでの人権学習を通じて深めた考えや、日常生活の中でのふとした気づき、心の揺れなど、生徒一人ひとりが自分自身の心と向き合い、紡ぎ出した言葉の数々。その中からこのたび大変喜ばしいニュースが届きました。去る1月21日(水)うきは市の人権擁護委員の方々が本校を訪れ校長室にて表彰式が行われました。本校から応募した作品の【表彰の様子 校長室にて】うち鋭い感性と豊かな人権意識が高く評価され、見事「最優秀賞」および「優秀賞」「奨励賞」を受賞いたしました。



○最優秀賞「言葉には力がある」3の2倉富愛結さん ○優秀賞「大切な子どもたちの笑顔を守るため」3の3瀧内光莉さん ○優秀賞「さらに明るい未来へ」3の1赤司柊さん ○奨励賞「SNSの正しい使い方」1の2大西菜月さん

表彰式では、緊張した面持ちながらも、誇らしげに賞状を受け取る生徒の姿が印象的でした。人権擁護委員の方々からも、中学生らしい感性と、他者を思いやる視点の素晴らしさについてお褒めの言葉をいただきました。作文を書くという過程は、自分の中にある「当たり前」を問い直し、他者の痛みに想像力を働かせる貴重な機会です。受賞した生徒はもちろん、一生懸命に取り組んだ全校生徒の皆さんの心に、自分を大切に、相手を尊重する「人権の種」がしっかりと芽吹いていることを強く感じました。これからも、互いの個性を認め合い、誰もが安心して過ごせる学校づくりに、全校で取り組んでいきます。

「命のバトン」を受け取って ～山本美奈子さんによる命の講演会～

2月20日(金)、1年生を対象に「命の講演会」を開催いたしました。講師としてお招きしたのは、市内に在住され、現在はイラストレーターとして多方面でご活躍の山本美奈子さんです。山本さんは、高校生という多感な時期にがんを患われ、そこから壮絶な闘病生活を経験されました。一時間という限られた時間ではありましたが、病と向き合う中で抱いた葛藤、支えてくれた方々との出会い、そして現在に至るまでの歩みを、飾らない言葉で率直に語ってくださいました。生徒たちは、山本さんの生き方を通して「生きることの尊さ」や「困難に立ち向かう強さ」を肌で感じ取っていたようです。講演終了後、学校を後にされる山本さんに、ある生徒が駆け寄り、「今日は、命のお話をしてくださりありがとうございました。今の私の心に深く響くお話でした。今日お話ししていただいて、本当によかったです」真っ直ぐな瞳で、力強く感謝を伝えたその姿。山本さんはその言葉を深く受け止め、「元気が出たね!よかった!」と、弾けるような笑顔で応えてくださいました。勇気を持って言葉を届けた生徒。そして、その思いを温かく包み込んでくださった山本さん。その場において2人の表情を間近で見られてよかったなと思いました。知識として「命が大切だ」と理解するだけでなく、誰かの生き方に触れ、自分の心で感じ、それを言葉にして他者に届ける。そんな貴重な学びの機会をくださった山本美奈子さんに、心より感謝申し上げます。この講演会で蒔かれた「命の種」が、1年生の皆さんの【講演会の様子 音楽室にて】心の中で、これからも大きく育っていくことを願っています。



「中学校生活最後の授業参観」～共に歩み、尊重し合える未来へ

2月20日(金)の5限目、3年生にとって「中学校生活最後」となる授業参観を実施いたしました。1・2年生は12月に人権学習の参観を行いました。3年生は進路に向けた三者面談等の大切な時間を優先し、2月のこの時期に開催しました。卒業を目前に控えたこのタイミングでの実施は、義務教育の締めくくりとして、これまでの学びを再確認する大変意義深いものとなりました。当日は、多くの保護者の皆様に参観していただき、生徒たちの成長した姿を見守っていただきましたことに心より感謝申し上げます。今回の授業内容は、「結婚と部落差別」を主題に偏見や差別に負けず、差別を乗り越え幸せに生きようとする生き方があることをつかませ、差別や偏見のない社会を実現しようとする心情を育てるものでした。生徒たちは、自分の将来や社会のあり方と重ね合わせながら、真剣な眼差しで議論を深めていました。進路選択という大きな人生の岐路に立つ今、大切なのは「どの道へ進むか」だけでなく、「どのような心を持って進むか」ではないでしょうか。自分自身の権利を大切にすると同時に、他者の尊厳を守り抜く強さ。これまでの人権学習を通して培ってきたその優しさと正義感を、卒業後の新しい世界でも発揮してほしいと願っています。これからも、「自分の人権を守り、他者の人権を守るための意識・意欲・態度」培ってほしい。校長として、そして一人の大人として、彼らのこれからの歩みを心から応援しています。



【授業参観の様子上から1組・2組・3組と廊下で参観される保護者の様子】